

第6学年国語科学習指導案

日時 平成21年11月20日(金) 5校時
児童 6年4組 男15名女16名 計31名
指導者 中塚良久

研究課題

学び合いで個の読みを深める授業

1 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう

教材名 「やまなし」／〈資料〉「イーハトーヴの夢」(光村図書 6年下)

2 単元について

(1) 児童観

児童は、「読むこと」の学習において、「本に親しみ、自分と対話しよう」では、登場人物の視点から、会話文や行動に着目して、心情の変化を読み取る学習を行った。また「読書の世界を深めよう」では、読者を作品に引き込む比喩や擬人法などの表現の工夫や筆者の五感に関わる表現に着目して、筆者の心情の変化や森に対する思いを読み取る学習を行ってきた。これらの学習を通して、登場人物や筆者の心情を叙述と関連付けて読み取ることができるようになってきている。

一方で、叙述から場面の様子や登場人物の心情を想像することに苦手意識をもつ児童も多く、読む能力にも差があるという実態があったため、ペアや班での学び合いを1学期から継続して取り入れてきた。読み取りが苦手な児童も、友達の考えを参考にしながら、自分の読みを深めることができるようになってきている。

(2) 教材観

国語科第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」ことである。本教材「やまなし」で育てたい主となる能力は、「C 読むこと」の内容にある「ウ 登場人物の心情や場面の描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」、「エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと」である。

本教材「やまなし」は、宮沢賢治の独特な表現が駆使された、象徴的で深い思想性をもつ作品である。「二枚の青い幻灯」によって「五月」と「十二月」の二つの世界で構成されており、それぞれの世界を対比して読むことにより、筆者の思いを捉えることができると考える。また比喩表現や色彩語、擬声語、擬態語、造語などが巧みに用いられ、鮮やかに川底の様子を描写している。これらの表現に触れることにより、二つの世界を豊かに想像する楽しさを味わうことができると考える。

資料「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の世界に深くかかわる筆者が小学生向けに書き下ろした評伝である。広い知識と確固たる理想をもつ宮沢賢治の生き方や考え方と「やまなし」を重ね合わせることで、より一層「やまなし」への興味と理解を深めることができると考える。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の点に留意して指導していきたい。

- ①学習の見通しをもつために、単元名に着目し、叙述を手がかりにして作品の世界を豊かに想像しながら読んでいくことを確認する。また初発の感想には、「作者がこの作品を通じて伝えたいこと」を書くようにし、作品に込められた作者の思いを常に意識しながら学習に取り組んでいくことを確認する。
- ②「五月」と「十二月」の谷川の様子を豊かに想像しながら読むことができるようにするために、比喩表現・擬声語・擬態語・色彩語などの効果や、かこの兄弟の心情に着目して読み取ること

ができるようにする。また教材文「やまなし」は、象徴的な表現が多く、想像をふくらませて読むことが困難な場合も出てくるのではないかと予想される。その際には、ペアやグループでの学び合いを設定し、自分の考えと友達のことを交流させることで、読みをさらに深めることができるようにする。

- ③「やまなし」の読みをさらに深めるために、まず「イーハトーヴの夢」で紹介される宮沢賢治の生き方や考え方について学び合う。次に「五月」と「十二月」の二枚の幻灯の対比と賢治の生き方や考え方から、「やまなし」に込められた賢治の思いを考えることができるようにする。最後に「やまなし」の学習全体を振り返って感想を記入する際には、自分の初発の感想と比較することにより、自分の読みの深まりを確認できるようにする。

3 学習指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- 情景や独特な表現に興味をもち、叙述を基に内容を想像したり、作者の思いを考えたりしようとしている。

(2) 読む能力

- 比喩表現や擬態語などの独特な表現に着目しながら、登場人物の心情や場面の情景を、叙述に即して想像しながら読むことができる。

- 〈資料〉「イーハトーヴの夢」を読むことで、自分の考えを明確にししながら作者の生き方や考え方を読み取ることができる。

(3) 言語についての知識・理解・技能

- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。
- 必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。

4 指導計画

(「読むこと」9時間)

学 習 内 容	(時数)
○単元のねらいを知り、学習の見通しをもつこと。	(1)
○文章全体のあらましをつかむこと。	(1)
○五月の谷川の世界を読み取ること。	(1)
○十二月の谷川の世界を読み取ること。	(1)
○五月と十二月の川底の様子を読み取ること。	(1)
○五月と十二月の谷川の世界を対比し、作者の思いを書きまとめること。	(1)
○「イーハトーヴの夢」を読み、全文のあらましをとらえること。	(1)
○宮沢賢治の生き方や考え方を読み取ること。	(1)
○「やまなし」に込められた宮沢賢治の思いを考え、交流すること。	本時 (1)

5 本時の指導

(1) ねらい

①国語への関心・意欲・態度

- ・作者が「やまなし」で伝えたいことを書きまとめ、交流しようとしている。

②読む能力

- ・作者が「やまなし」を通して伝えたい思いを、自分なりに根拠を明確にしながらかつとめることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 (◇評価)
導 入 2 分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">賢治が「やまなし」で伝えたい思いを考えよう。</div> 3 課題解決の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「イーハトーヴの夢」で宮沢賢治の生き方や考え方を読み取ったことを想起する。 ・本時は宮沢賢治が「やまなし」で伝えたい思いは何かを考える時間であることを確認する。 ・「かわせみ」と「やまなし」がかにの兄弟に与えたものと、賢治の生き方や考え方を関連付けて考えればよいことを確認する。
展 開 38 分	4 課題を解決する。 (1) 「かわせみ」と「やまなし」の対比と、賢治の生き方や考え方を振り返る。 (2) 賢治の生き方や考え方をもとにして、作品に込められた賢治の思いについて一人学びをする。 (3) 一人学びしたことをもとに話し合う。 (4) 「やまなし」を題名にした意図を話し合う。 (5) 学び合ったことを生かして、作者が伝えたいことをまとめる。 (6) 書きまとめたこと発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「かわせみ」と「やまなし」がかにの兄弟に与えたものの対比を再確認する。 ・「イーハトーヴの夢」から読み取った賢治の生き方や考え方を振り返る。 ・「かわせみ」と「やまなし」の対比の様子と賢治の生き方や考え方で重なる所から、作品に込められた賢治の思いを、根拠を明確にして自分の言葉でまとめることができるようにする。 ・最初にペアでの話し合いを行い、その後で全体の話し合いを行う。 ・「かわせみ」と「やまなし」の対比の様子と賢治の生き方や考え方で重なる所を確認し、そこから分かる賢治の思いを発表することができるようにする。 ・「かわせみ」ではなく「やまなし」という題名にした理由を考えていくことにより、「やまなし」に込められた賢治の思いを考えることができるようにする。 <p>◇作者が作品を通じて伝えたい思いを、根拠を明確にしてまとめることができたか。(ノート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賢治の伝えたい思いについて、友達のまとめ方のよさに気付くことができるようにする。
終 末 5 分	5 学習のまとめをする。 (1) 学習について振り返り、感想を書く。 (2) 感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」の学習全体を振り返り、感想を書く。 ・自分の初発の感想を振り返り、自分の読みの深まりを実感することができるようにする。